# 野　菜

実　況　（２８年４月２０日現在）

## １　施設野菜

果菜類

(1) トマト

若狭地区は、１月上旬定植が７～８段果房開花盛期で、４月１０日から収穫が始まっている。福井地区では、２月下旬定植が早いもので、４段果房開花、１段果直径５～６㎝となっている。南越地区のＲＷ栽培では、４～５段果房が開花、３段果が着果している。他の栽培では３段果房が開花期となっている。

(2) ミディトマト

坂井地区は、３月上旬定植で、生育の早いところでは３～５段果房開花、１～２段が着果している。福井、南越地区の３月中旬定植が２～３段果房が開花期となっている。奥越地区では、４月１５日から苗配布が行われ定植されている。

若狭地区の促成長期どり栽培（前年７月定植）は、１６～２４段果房を収穫中である。

葉かび病が一部少発である。

(3) キュウリ

福井地区は、３月中旬に定植したものが４月１０日頃から収穫開始となっている。二州地区では、４／８から苗配布が行われ定植されている。

うどんこ病が一部微発である。

(4) スイカ

坂井北部丘陵地は、３月中・下旬に定植し、一部で帯づるが多発している。生育の早いもので子づる１２節前後で、開花は４月２５日頃から始まっている。三里浜砂丘地では、３月中旬に定植し、生育は平年よりやや早めに進んでいる。

(5) メロン

坂井北部丘陵地は、プリンスメロンが３月２０日から定植開始され、４月１２日から開花している。アンデスメロンは、３月２５日から定植が始まり、１１～１３節となっている。

アールスメロンは、坂井北部丘陵地では３月２５日から定植された。

マルセイユメロンは、坂井北部丘陵地で３月２２日から定植され、４月１３日から開花し、生育は平年並みである。三里浜砂丘地では３月下旬から４月上旬に定植され、４月１２日から開花し、一部では葉焼けも見られたが回復してきている。南越地区では３月２２日から定植され、子づるを整枝中である。

(6) イチゴ

坂井地区、南越地区、丹生地区では第２～３果房収穫中で終盤となっており、４月下旬から５月下旬で収穫終了予定である。

アブラムシ類が一部多発、ハダニ類が少～多発である。

葉根菜類

(1) 軟弱野菜

福井地区は、２月中下旬播種のホウレンソウを約５０日で収穫している。

ホウレンソウケナガコナダニが微発である。

(2) ダイコン

三里浜砂丘地は、２月１４日から播種が行われている。生育は平年よりやや早めに進み、４月下旬から出荷が始まる予定である。

## ２　露地野菜

果菜類

(1) ピーマン

丹生地区は、４月２４日から定植予定となっている。

(2) スイカ

三里浜砂丘地は４月上旬、坂井北部丘陵地では４月中旬に定植開始となっている。４月１７日の強風により地上部が傷つき、一部で草勢低下が見られた。南越地区では、３月中旬播種で現在育苗中、４月下旬から定植予定となっている。

(3) ナス

奥越地区は、４月１９日から苗配布が行われ定植された。

(4) カボチャ

坂井北部丘陵地のトンネル栽培は、４月上旬から定植開始し、本葉５～６枚で子づるの発生初期となっている。

(5) 一寸ソラマメ

若狭地区は、枝長８０㎝になっており、１０段目まで開花、５段まで着莢し大きいもので５㎝に肥大している。坂井地区では、４段目までが肥大している。

赤色斑点病が一部で微発している。

(6) スイートコーン

福井地区は、旧清水町で４月上～下旬、永平寺町で４月２日から播種が行われ育苗中である。４月下旬から定植予定である。

(7) エダマメ

二州地区は、３月下旬に播種され、４月下旬に定植予定である。

葉菜類

(1) ブロッコリー

福井地区は３月２５日から、南越地区で３月１８日から定植が始まった。本葉６～７枚になっている。若狭地区では４月初旬から順次定植され、早いもので本葉８枚になっており、生育は進んでいる。

(2) ネギ

越冬４～６月どりは、奥越地区では、葉長６５～７０㎝、葉鞘径１９～２２㎜、本葉が３～４枚と昨年と比べると太く生育は全体的に早めになっている。福井地区では、葉鞘径２８㎜で４月中旬に収穫している。

夏秋（７～９月）どりの定植は、奥越地区では自家育苗が３月中旬、購入苗が４月５日、福井地区で３月１５日、若狭、坂井地区では３月下旬から順次開始されており、活着は良好である。

秋冬（１０～翌１月）どりは、丹南、二州地区では、４月下旬から定植が始まっている。

(3) キャベツ

越冬初夏（５～６月）どりは、坂井地区の水田地帯が結球中期、坂井北部丘陵地で一部結球始めになっている。また、春植え６月どりは４月上旬に定植が行われている。

(4) 勝山ミズナ

市場出荷は、前年より１０日早い４月３日で終了した。

根菜類他

(1) ダイコン

三里浜砂丘地は３月９日から播種開始されており、生育がやや早い。４月１７日の強風によりトンネルがめくれて地上部が傷つき、生育回復を図るためトンネル除去と追肥を早めている。早いもので、根の肥大が始まっている。

(2) ニンジン

坂井北部丘陵地は、３月２０日頃から播種が始まっている。

(3) カンショ

坂井北部丘陵地は、種イモ伏せ込みが３月下旬から開始されており、４月下旬から定植予定である。

(4) サトイモ

奥越地区は、早いところで３月末から定植が開始された。消雪が早かったことから、圃場準備が早く進み、定植は順調に進んでいる。

(5) タマネギ

福井地区は、草丈７０㎝、生葉数８枚、球径３５㎜となっており、平年より約２週間早く球の肥大が進んでいる。坂井地区では、草丈４０㎝、生葉数５枚となっている。

葉先枯れ症が微発である。

(6) ニンニク

福井地区は、草丈７０㎝、生葉数８枚となっている。さび病が少発である。

## 対　策

５月は日射量が多くなるとともに、温度の日較差も大きい。特に、施設園芸では晴天時にハウス内が高温になるため換気に留意して高温障害を防止するとともに、野菜の生育に合った養水分管理を行う。また、病害虫については発生前または初期防除に努めるとともに病害虫の拡大を防ぐ。

### １　施設野菜

５～６月にかけて周期的に寒気が南下して気温が下がる日もあるので、ハウスの保温や換気は天気の変化に留意して実施する。

果菜類

(1) トマト

気温が上昇するとともに、栄養成長と生殖成長が同時に進むため、草勢が低下しやすくなる。草勢をよく観察し、摘果や腋芽除去、追肥、かん水を早めに行なう。また、茎葉が繁茂してくると、葉かび病、灰色かび病が発生しやすくなるので、ハウス内の過湿を避けるとともに、必要に応じて薬剤での防除に努める。

(2) ミディトマト

半促成栽培では、５段花房開花頃から節水管理をして糖度の上昇を促進させる。しかし、生長点が萎れるような極端な節水は、上段果房の着果不良や尻腐果が発生するため避ける。葉かび病等の病害が見られたら、ただちに防除を行う。

(3) キュウリ

中段の側枝発生が悪くなって収穫量が減少しないよう、曲がり果等を早めに摘除するとともに、積極的に追肥、かん水を行う。

(3) スイカ

１８～２０節が雌花の開花と着果時期となるので、着果安定と果実肥大促進のため次のことに留意する。ハウス内温度の目安は、開花２～３日前から開花後約２週間は、日中３０℃前後、夕方はハウスを早めに閉めて夜温１６℃、地温２０℃に保温して管理する。また、着果まではかん水を控え、過繁茂を防止する。着果を確認したら早めにかん水量を多くして肥効を高める。つる枯れ病、アブラムシ等に対しては早期防除が重要であるが、着果期のミツバチ導入を考慮して薬剤を選定する。

(4) メロン

プリンスメロンは５月末から収穫期に入るので、草勢が低下しない程度にかん水を行う。ネットメロンは５月上旬から着果期に入るので、交配期は夜間の保温に努める。また、着果が確認できたら、かん水量を多くして肥効を高めて果実肥大を促すとともに、果実形状の良いものを残し、その他のものを摘果する。マルセイユメロンは１株あたり５～６果程度になるように、着果位置を揃えて摘果する。

軟弱野菜

(1) ホウレンソウ

温度の上昇によって急激に生育が進むため、収穫遅れにならないよう留意する。

## ２　露地野菜

圃場の乾燥が続くと、肥大不足や生理障害（カルシウム欠乏等）が発生しやすくなるので、適宜かん水を行う。ネキリムシの誘殺数が急増しており、幼虫による加害は４月下旬から６月上旬にかけて長期間続く見込みである。被害を軽減するために、播種、定植時には、品目に応じた薬剤（粒剤、粉剤）を積極的に活用する。

果菜類

(1) スイカ

定植後１０～１５日間の密閉期間を過ぎたら徐々に換気を始めて茎葉の充実を促す。なお、晴天日に不十分な換気や土壌水分の不足は、トンネル内温度が著しく高くなり、葉焼けの発生や雌花の着生・充実を悪くするので、３５℃以上の高温にならないように換気する。また、トンネル除去は定植後４０日頃を目安に行うが、寒気による低温が予想される場合は延期する等、天候の変化に留意しながら行う。

(2) ナス、ピーマン

地温１５～１６℃を目安に風の少ない日に定植する。ナスは本葉７～８枚、ピーマンは本葉１２～１３枚の１番花が咲き始めた頃の苗が定植適期である。梅雨から盛夏を越えて秋まで長期間栽培する場合、根群の健全化、維持を図ることが重要となる。定植前の排水対策を徹底するとともに、堆肥等の有機物資材の積極的な施用や深耕による土づくりを十分に行っておく。

(3) 一寸ソラマメ

莢肥大盛期になるので早めに追肥を行い、土壌水分を確保して莢の肥大を促す。

葉菜類

(1) ネギ

定植後の追肥・土入れ作業は苗の生育と天候を見ながら早めに行う。ただし、土入れは、分岐部の下あたりまでとする。一度に多くの土を寄せすぎると生育不良や軟腐病等の原因になるので注意する。また、粒剤散布（軟腐病対策）は梅雨入り前までに行う。植え溝の

雑草については、初期除草剤の薬効が切れたころから発生してくるので、雑草の発生を確認したら、早めに三角鍬等で手取りする。

(2) キャベツ

越冬初夏どり栽培は、5月上･中旬頃から収穫期となるため、圃場の観察をまめに行い、計画的に適期収穫を進める。

根菜類

(1) ダイコン

本葉２０枚頃(根部肥大開始)からは高温に弱くなるので、トンネル換気を十分に行う。

(2) タマネギ、ニンニク

肥大盛期になるので、圃場の乾燥が続く場合は、必要に応じてかん水を行う。ただし、収穫間際のかん水は裂皮する原因となるのでかん水しない。

これからの追肥は、球の肥大に対する効果は少なく、腐敗を助長する恐れがあるので行わない。